

遠隔臨場に関する試行要領（案）

令和5年4月

岡山県土木部

目次

1	はじめに.....	1
2	総則.....	2
2.1	目的.....	2
2.2	適用の範囲.....	3
2.2.1	段階確認.....	4
2.2.2	材料確認.....	4
2.2.3	立会.....	5
2.2.4	打合せ.....	5
2.3	事前協議.....	6
2.4	施工計画書等.....	7
2.5	監督員等による監督の実施項目.....	8
2.5	検査員等による検査の実施項目.....	9
3	遠隔臨場に使用する機器と仕様.....	10
4	遠隔臨場による段階確認等の実施.....	11
4.1	事前準備.....	11
4.2	遠隔臨場の実施及び記録と保存.....	12
5	留意事項等.....	13
5.1	効果の把握.....	13
5.2	留意事項.....	13
5.3	その他.....	13
	参考資料.....	14
参考1	動画撮影用カメラとWeb会議システム等に関する参考値.....	14
参考2	特記仕様書【工事】(記載例).....	15
参考3	特記仕様書【業務】(記載例).....	16
参考4	確認項目の適用性.....	17
参考5	施工計画書の記載例.....	34
参考6	業務計画書の記載例.....	35

1 はじめに

建設現場等における遠隔臨場については、『遠隔臨場に関する試行について』により、『遠隔臨場に関する試行要領（案）（以下、「本要領」という。）』及び『遠隔臨場に関する監督・検査試行要領（案）（以下、「監督・検査要領」という。）』を策定し、通知しているところである。そのため、遠隔臨場試行にあたっては、本要領及び監督・検査要領によることを基本とする。

○対象工事及び対象業務

岡山県土木部が発注する全ての工事及び業務を対象とし、受注者が希望する場合に遠隔臨場を実施できるものとする。ただし、通信環境が整わない現場や工種によって不十分、非効率的な確認になってしまうおそれのある確認事項は、対象としないこととする。

①新規発注工事及び新規発注業務の場合

発注時において、遠隔臨場の試行を特記仕様書に記載することとする。ただし、通信環境が整わない現場や工種によって不十分、非効率になることが明確な場合は、この限りではない。

②既契約（特記に記載がない場合）の工事及び業務の場合

受発注者間で協議し、協議が整った場合は、実施することも可とする。

○費用負担

遠隔臨場実施にかかる費用負担については、以下のとおりとする。

- ・遠隔臨場にかかる費用については、別途計上しないものとする。

2 総則

2. 1 目的

本要領は、公共工事の建設現場等において「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」を必要とする作業に遠隔臨場を適用して、受発注者の作業効率化を図るとともに、契約の適正な履行として施工履歴を管理するために、以下の事項を定めるものである。

- 1) 適用の範囲
- 2) 遠隔臨場に使用する機器構成と仕様
- 3) 遠隔臨場による段階確認等の実施及び記録と保管

【解説】

遠隔臨場とは、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）によって取得した映像及び音声を利用し、遠隔地から Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」を行うことをいう。

本要領は、受注者における「段階確認等に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、遠隔臨場に適用するにあたり、その適用範囲や具体的な実施方法と留意点を示したものである。

本要領の目的を踏まえ、遠隔臨場に必要とする機器の準備と運用が可能であり、かつ実施により効果の見込める工種を対象とする。遠隔臨場を実施する工種の選定は「参考4 確認項目の適用性」を参考とする。ただし、「参考4 確認項目の適用性」については、現場条件により適用性が一致しない場合も想定されることから、現場での適用・不適用を拘束するものではなく、受発注者間にて協議の上、適用性を判断する。

2. 2 適用の範囲

本要領は、所定の性能を有する遠隔臨場の機器を用いて、『岡山県土木工事共通仕様書』に定める「段階確認」、「材料確認」と「立会」、『公共建築工事標準仕様書』等に定める「監督職員の立会い」、及び『岡山県設計・測量・調査等業務共通仕様書』に定める「立会」と「打合せ」を実施する場合に適用する。

【解説】

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して確認するものである。

遠隔臨場については、受発注者間の協議により、適用する工種・確認項目を選定し実施するものとし、変更契約の際には「参考2 特記仕様書【工事】（記載例）」及び「参考3 特記仕様書【業務】（記載例）」を参考に明示するものとする。

確認実施者が現場技術員等の場合は、現場技術員等が使用する PC 等にて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ（パソコン等の画面表示を静止画像として保存）等で記録し、情報共有システム（ASP）等で監督員へ提出（図 2-1※1）する。

動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の使用は、「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」だけでなく、現場不一致、事故等の報告時の活用を妨げるものではない。

実施手順	受注者の実施項目
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">事前協議</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div>	<p>①事前協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔臨場実施希望の有無 <p>②施工計画書等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本要領を適用する「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」項目 <p>③機器の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等） ・Web 会議システム等 <p>④段階確認等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備 ・撮影の実施（※1）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">施工計画書等※</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">機器の準備</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">遠隔臨場による 段階確認等の実施</div>	

図 2-1 受注者の実施項目

※施工計画書等とは

施工計画書、業務計画書又は工事打合せ簿をいう。

2. 2. 1 段階確認

『岡山県土木工事共通仕様書』に定める「段階確認の臨場」において、「監督員は、設計図書に定められた段階確認において臨場を机上とすることができる。」の事項に該当し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器を用いて、その内容について契約図書との適合を確かめる方法を記載したものである。なお、この方法は上記事項に記載されている「受注者は、監督員に施工管理記録、写真等の資料を提示し確認を受けなければならない。」の事項に該当するものである。

動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器を用いて、Web 会議システム等を利用することにより、監督員等が確認するのに十分な情報を得ることができた場合に、従来の現場臨場に代えて、遠隔臨場を利用することが出来るものとする。なお、監督員等が十分な情報を得られないと判断する場合には、受注者にその旨を伝え、機器の調整等により改善を図ることが困難な場合には、現場臨場による段階確認を実施する。

2. 2. 2 材料確認

『岡山県土木工事共通仕様書』、「第2編 材料編 第1章 一般事項」、「第2節 工事材料の品質」の「1. 一般事項」及び「4. 見本・品質証明資料」による品質確認及び現物による確認を記載したものである。

現物による確認においては、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）と Web 会議システム等を利用することにより、監督員等が確認するのに十分な情報を得ることができた場合に、従来の現場臨場に代えて、遠隔臨場を利用することが出来るものとする。なお、監督員等が十分な情報を得られないと判断する場合には、現場臨場による材料確認を実施する。

工場製作工（共通）において、受注者は鋼材に JIS マーク表示のないものについては、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器を用いて以下のとおり確認するものとする。

- ・鋼材に製造ロット番号等が記され、かつ、これに対応するミルシート等が添付されているものについては、ミルシート等による品質確認及び現物による員数、形状寸法の確認
- ・鋼材の製造ロット番号等が不明で、ミルシート等との照合が不可能なもののうち、主要構造部材として使用する材料については、機械試験による品質確認及び現物による員数、形状寸法確認による材料確認
- ・上記以外の材料については、現物による員数、形状寸法確認

2. 2. 3 立会

『岡山県土木工事共通仕様書』に定める「立会」において「契約図書に示された項目について、監督員等が臨場により、その内容について契約図書との適合を確かめることをいう。」事項、『公共建築工事標準仕様書』等に定める「監督職員の立会い」において「監督職員が臨場により、必要な指示、承諾、協議、検査及び調整を行うことをいう。」事項、及び『岡山県設計・測量・調査等業務共通仕様書』に定める「立会」における「設計図書に示された項目において監督員が臨場し内容を確認することをいう。」事項に該当し、この場合における監督員等が臨場にて行う行為に動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器を用いて、その内容について契約図書との適合を確かめる方法を記載したものである。

動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）と Web 会議システム等を利用することにより、監督員等が確認するのに十分な情報を得ることが出来た場合に、従来の現場臨場に代えて、遠隔臨場を利用することが出来るものとする。また、立会項目に関しては『岡山県土木工事共通仕様書』及び『岡山県設計・測量・調査等業務共通仕様書』に従うものとする。なお、監督員が十分な情報を得られないと判断する場合には、受注者にその旨を伝え、機器の調整等により改善を図ることが困難な場合には、現場臨場による立会を実施する。

2. 2. 4 打合せ

『岡山県設計・測量・調査等業務共通仕様書』に定める「打合せ」において、「業務を適正かつ円滑に実施するために主任技術者等と監督員が面談により、業務の方針及び条件等の疑義を正すことをいう。」事項に該当し、この場合における監督員等が面談にて行う行為に動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器を用いて、その内容を確認する方法を記載したものである。

動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器を用いて Web 会議システム等を利用することにより、監督員等が確認するのに十分な情報を得ることができた場合に、従来の対面の打合せに代えて、遠隔臨場を利用することが出来るものとする。なお、監督員等が十分な情報を得られないと判断する場合には、受注者にその旨を伝え、機器の調整等により改善を図ることが困難な場合には、対面による打合せを実施する。

2. 3 事前協議

契約締結後、受発注者の協議により遠隔臨場を実施するか否かを決定する。なお、決定後においても受発注者の協議により、実施の可否を変更することができる。

【解説】

契約締結後、施工計画書の提出前に、遠隔臨場の実施希望の有無を発注者と協議する。

なお、受注者は、遠隔臨場を実施しようとする場合は、実施現場において、Web 会議システム等の通信状況の確認を行い、遠隔臨場が実施できることを確認する。

2. 4 施工計画書等

受注者は、遠隔臨場の実施にあたり、施工計画書等に次の事項を記載し、監督員等の確認を受けなければならない。

- 1) 適用種別
- 2) 使用機器と仕様
- 3) 段階確認等の実施

【解説】

(1) 適用種別

本要領を適用する「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」項目を記載する。適用する確認項目については「参考4 確認項目の適用性」を参考にするものとする。ただし、「参考4 確認項目の適用性」については、現場条件により適用性が一致しない場合も想定されることから、現場での適用・不適用を拘束するものではなく、受発注者間にて協議の上、適用性を判断する。

(2) 機器構成と仕様

本要領に基づいて使用する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）とWeb会議システム等を記載する。

①動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器と仕様

現場（臨場）にて使用する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器と仕様を記載する。

②Web会議システム等

動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）を監督員等へ配信するために使用するWeb会議システム等を記載する。なお、利用するWeb会議システム等の仕様については、発注者が保有するインターネット端末で利用可能であり、かつ、発注者の利用に際して通信費以外の費用が新たに生じないものを受注者が選定し、事前に監督員の了解を得るものとする。

(3) 段階確認等の実施

本要領に基づいた、「段階確認」、「材料確認」「立会」と「打合せ」の実施方法を記載する。

2. 5 監督員等による監督の実施項目

監督員等による監督の実施項目は、「監督・検査要領」の「4 監督員等の実施項目」による。

【解説】

監督員等は、監督・検査要領に記載されている内容を確認及び把握するために資料等の提出を請求できるものとし、受注者はこれに協力しなければならない。

受注者は、本要領に記載されている内容を確認、把握する上で必要な準備、人員及び資機材等の提供並びに、必要とする資料の整備をするものとする。

確認実施者が現場技術員の場合は、現場技術員が使用する PC 等にて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ（パソコン等の画面表示を静止画像として保存）等で記録し、情報共有システム（ASP）等で監督員等へ提出（図 2-2※1）する。（従来の段階確認等資料の管理と同様とする。）

実施手順	監督員等の実施項目
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">事前協議</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div>	<p>①事前協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔臨場実施希望の有無 <p>②施工計画書等の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督・検査要領を適用する「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」項目 ・機器構成と仕様 等 <p>③段階確認等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「検査・段階確認書」、「材料検査・確認書」、「立会書」と「工事打合せ簿」の受領 ・撮影の記録（※1）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">施工計画書等</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div>	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">機器の準備</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">遠隔臨場による 段階確認等の実施</div>	

図 2-2 監督員等の実施項目

2. 5 検査員等による検査の実施項目

検査の実施項目は、「監督・検査要領」の「5 検査員等の実施項目（書面検査）」による。

【解説】

遠隔臨場を適用した「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」における検査員等の実施項目を以下に示す。確認実施者が現場技術員の場合は、実施の記録が監督員に提出されていることを確認する。

実施手順	検査員の実施項目
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">事前協議</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">施工計画書等</div>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">機器の準備</div>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">遠隔臨場による 段階確認等の実施</div>	<p>①施工計画書等の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督・検査要領を適用する「段階確認」、「材料確認」、「立会」と「打合せ」項目の確認 <p>②段階確認等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「検査・段階確認書」、「材料検査・確認書」、「立会書」と「工事打合せ簿」の授受状況の確認

図 2-3 検査員等の実施項目

3 遠隔臨場に使用する機器と仕様

遠隔臨場に使用する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の資機材は受注者が準備、運用するものとする。

【解説】

遠隔臨場に使用する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の機器は受注者が準備、運用するものとする。また、遠隔臨場に用いる動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）と Web 会議システム等は監督員と協議の上、確認行為を実施できるものを選定する。仕様における参考数値を「参考1 動画撮影用カメラと Web 会議システム等に関する参考値」に示す。ただし、記載の参考数値については、今後の映像・通信技術向上により、参考数値が適切でなくなる場合も想定されることから、現場での適用を拘束するものではなく、受発注者間にて協議の上、判断するものとする。

なお、発注者側にて準備している動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）や既に使用している Web 会議システムがある場合、また特記仕様書に資機材準備の別途記載がある場合にはこの限りではない。

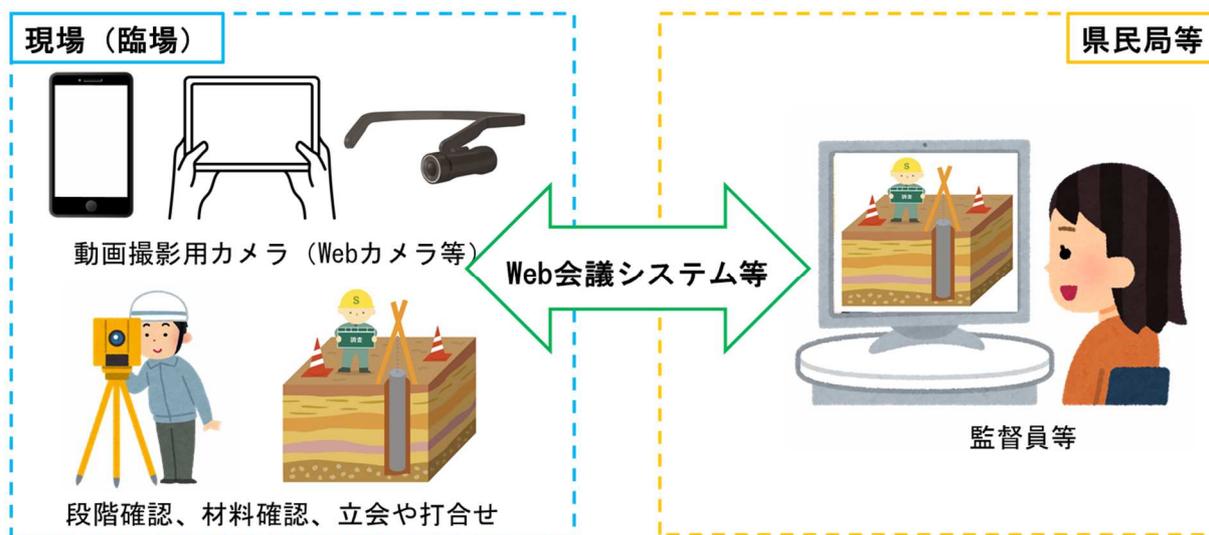


図 3-1 機器構成（例）

4 遠隔臨場による段階確認等の実施

4. 1 事前準備

受注者は、遠隔臨場の実施にあたり、必要な準備をしなければならない。

【解説】

受注者は、事前に段階確認の実施に先立ち、監督員等実施時間、実施箇所（場所）や必要とする資料等について、監督員等の確認を行う。なお、監督員等による確認・立会の実施時間は、監督員等の勤務時間内とする。ただし、やむを得ない理由があると監督員が認めた場合はこの限りではない。

(1) 段階確認

受注者は、事前に段階確認に係わる報告（種別、細別、施工予定時期等）を監督員等に提出しなければならない。また、監督員等から段階確認の実施について通知があった場合には、受注者は、段階確認を受けなければならない。

(2) 立会書の提出

受注者は設計図書に従って監督員等の立会が必要な場合は、あらかじめ立会書を所定の様式により監督員等に提出しなければならない。

(3) 工事打合せ簿の提出

受注者は監督員等と打合せを実施する場合は、あらかじめ工事打合せ簿等を監督員等に提出しなければならない。

4. 2 遠隔臨場の実施及び記録と保存

受注者は、本要領に従い遠隔臨場を実施する。

【解説】

(1) 資機材の確認

受注者は、事前に監督員等の動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）や Web 会議システム等の仕様、通信状況等について確認を行う。また、必要な準備、人員及び資機材等を提供する。

(2) 現場（臨場）の確認

現場（臨場）における確認箇所の位置関係等を把握するため、受注者は実施前に現場（臨場）周辺の状況を伝え、監督員等は周辺の状況を把握したことを受注者に伝える。

(3) 実施

受注者は、「工事名及び業務名」、「工種」、「確認内容」、「設計値」や「使用材料」等の必要な情報について適宜黒板等を用いて表示する。必要な情報を冒頭で読み上げ、監督員等の実施項目の確認を得ること。また、終了時には、確認箇所の内容を読み上げ、監督員等による実施結果の確認を得ること。

(4) 記録と保存

受注者は、遠隔臨場の映像と音声を配信するのみであり、記録と保存を行う必要はない。ただし、打合せ内容を書面（打合せ記録簿等）に記録する場合は、遠隔臨場により実施したことを記載すること。

確認実施者が現場技術員の場合は、現場技術員が使用する PC 等にて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ（パソコン等の画面表示を静止画像として保存）等で記録し、情報共有システム（ASP）等で監督員へ提出（図 2-1※1）する。（従来の段階確認等資料の管理同様とする。）

5 留意事項等

5. 1 効果の把握

今後の適正な取組みに資するため、実施を通じた効果の検証及び課題の抽出等について、受注者及び監督員等を対象としたアンケート調査等により依頼があった場合は対応することとする。

5. 2 留意事項

遠隔臨場にあたっては、以下に留意する。

- (1) 受注者は、被撮影者である当該現場の作業員に対して、撮影の目的、用途等を説明し、承諾を得ること。
- (2) 動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の使用は意識が対象物に集中し、足下への注意が薄れたり、カメラの保持、操作のために両手が塞がることにより、転倒等の事故に繋がる場合がある。そのため撮影しながら異動する場合は進行方向の段差・障害物の有無を確認するなど、安全対策に留意すること。
- (3) 受注者は、作業員のプライバシーを侵害する音声配信される場合があるため留意すること。
- (4) 受注者は、当該現場外ができる限り映り込まないように留意すること。
- (5) 受注者は、公的ではない建物の内部や人物が意図せず映り込んでしまった場合は、記録映像から人物等を特定できないよう必要な措置を行うこと。
- (6) 電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行う。対応に関しては確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督員等は机上確認することも可能とする。
なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。
- (7) 受注者は、故意に不良箇所を撮影しない等の行為は行わないこと。
- (8) 本要領によりがたい場合は、適宜受発注者間で協議すること。

5. 3 その他

本要領に記載されていない事項については、次の担当者に相談すること。

- ・岡山県土木部技術管理課技術指導班

附 則

この要領は、令和5年4月1日以降入札公告、指名通知又は随意契約のための見積書徴取を行う工事及び業務から適用する。ただし、適用日以前の工事及び業務であっても、受発注者協議により、適用できるものとする。

参考資料

参考 1 動画撮影用カメラと Web 会議システム等に関する参考値

表 参考-1 動画撮影用のカメラに関する参考数値

項目	仕様	備考
映像	画素数：640×480 以上	カラー
	フレームレート：15fps 以上	
音声	マイク：モノラル（1チャンネル）以上	
	スピーカ：モノラル（1チャンネル）以上	

表 参考-2 Web 会議システムに関する参考数値

項目	仕様	備考
通信回線速度	下り最大 50Mbps、上り最大 5Mbps 以上	
映像・音声	転送レート（VBR）：平均 1Mbps 以上	

画素数と最低限必要な通信速度を示す。なお、下表は目安であり、利用する人数や映像共有の有無等の利用環境や電波状況、時間帯に応じて変化することに留意する。

表 参考-3 画質・画素数と最低限必要な通信速度

画質	画素数	最低限必要な通信速度
360p	640×480	530kbps
480p	720×480	800kbps
720p	1280×720	1.8Mbps
1080p	1920×1080	3.0Mbps
2160p	4096×2160	20.0Mbps

※使用する機器の機能としては仕様を満たしていても、機器の設定により、仕様を満たさない場合があるため、注意すること。（例：使用する端末の画質を「高設定」にした場合は仕様を満たすが、「低設定」にした場合、仕様を満たさないことがあるため、端末画質を「高設定」にすること。）

発注者の標準的な通信環境の仕様を示す。下記表を参考にし、発注者の通信環境を確認すること。

表 参考-4 発注者の標準的な通信環境の仕様

項目	仕様	
通信プロトコル方式 及びポート番号	TCP	80、443
	UDP	なし
利用環境	OS	Windows10
	ブラウザ	Microsoft Edge
	アプリケーション	アプリケーションのインストールは原則行えません

参考2 特記仕様書【工事】（記載例）

（記載例）遠隔臨場の試行について

1 遠隔臨場の試行

本工事は、受注者の希望により遠隔臨場を試行することができるものである。

「遠隔臨場の試行」は、受注者における「段階確認に伴う手持ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）とWeb会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものである。なお、遠隔臨場は、『遠隔臨場に関する試行要領（案）』の内容に従い実施する。

2 遠隔臨場を適用する工種、確認項目

現場条件等により遠隔臨場の適用性が一致しない場合も想定されることから、現場での適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。受注者は適用する工種、確認項目に関する協議資料作成にあたり、『遠隔臨場に関する試行要領（案）』「参考4 確認項目の適用性」別表1～3を参考とする。

3 試行内容

（1）段階確認・材料確認、立会での確認

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声をWeb会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」を行うものである。

（2）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）やWeb会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督員等と協議し決定するものとする。

（3）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行う。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督員等は机上確認するもとも可能とする。

（4）効果の検証

遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督員等の指示による。

（5）費用

遠隔臨場にかかる費用については、別途計上しないものとする。

参考3 特記仕様書【業務】（記載例）

（記載例）遠隔臨場の試行について

1 遠隔臨場の試行

本業務は、受注者の希望により遠隔臨場を試行することができるものである。

「遠隔臨場の試行」は、受注者における「立会や打合せに伴う手持ち時間の削減」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）とWeb会議システム等を介して「立会」と「打合せ」の遠隔臨場を行うものである。なお、遠隔臨場は、『遠隔臨場に関する試行要領（案）』の内容に従い実施する。

2 遠隔臨場を適用する確認項目

遠隔臨場の適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する項目（立会及び打合せ）を選定することとする。

3 試行内容

（1）立会・打合せでの確認

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声をWeb会議システム等を介して「立会」と「打合せ」を行うものである。

（2）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）やWeb会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督員等と協議し決定するものとする。

（3）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行う。

（4）効果の検証

遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督員等の指示による。

（5）費用

遠隔臨場にかかる費用については、別途計上しないものとする。

参考4 確認項目の適用性

汎用的な動画撮影用のカメラ（Webカメラ等）やWeb会議システム等の機器を用いた場合の遠隔臨場の適用性を別表1、2、3に示す。

○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等又は現場臨場が必要になる確認項目

なお、「○：汎用的な機器で実施可能な確認項目」において受注者の創意工夫（特殊な機器の使用等）を妨げるものではない。また、「△：特殊な機器等又は現場臨場が必要になる確認項目」は、現在の測定機器等に加え、特殊な機器（AI等の汎用化されていない機器）もしくは現場臨場を必要とする確認項目である。

遠隔臨場を適用する工種、細別等は、別表1～3を参考とする。ただし、現場条件により適用性が一致しない場合も想定されることから、現場での適用・不適用を拘束するものではなく、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（1／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
指定仮設工※1		設置完了時	使用材料	○
指定仮設工※1		設置完了時	高さ、深さ	○
指定仮設工※1		設置完了時	幅、長さ	○
掘削工※2		土(岩)質の変化した時	土(岩)質	△
掘削工※2		土(岩)質の変化した時	変化位置※3	○
掘削工※2		土(岩)質の変化した時	変化位置※4	△
道路土工(路床盛土工) 舗装工(下層路盤)		プルフローリング実施 時	プルフローリング実施 状況	△
表層安定処理工	表層混合処理、路床安 定処理	処理完了時	使用材料	○
表層安定処理工	表層混合処理、路床安 定処理	処理完了時	基準高	○
表層安定処理工	表層混合処理、路床安 定処理	処理完了時	幅	○
表層安定処理工	表層混合処理、路床安 定処理	処理完了時	延長	○
表層安定処理工	表層混合処理、路床安 定処理	処理完了時	施工厚さ	○
表層安定処理工	置換	掘削完了時	使用材料	○
表層安定処理工	置換	掘削完了時	幅	○
表層安定処理工	置換	掘削完了時	延長	○
表層安定処理工	置換	掘削完了時	施工厚さ	○
表層安定処理工	サンドマット	処理完了時	使用材料	○
表層安定処理工	サンドマット	処理完了時	幅	○
表層安定処理工	サンドマット	処理完了時	延長	○
表層安定処理工	サンドマット	処理完了時	施工厚さ	○
バーチカルドレーン工	サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、ペ ーパードレーン	施工時	使用材料(サンド)	○
バーチカルドレーン工	サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、ペ ーパードレーン	施工時	使用材料(ペーパー)	○

※1：仮設道路、仮栈橋工、仮締切工、土留工等

※2：河川土工、海岸土工、砂防土工、道路土工

※3：変化位置を色の変化等により確認する場合

※4：変化位置を打音検査等により確認する場合

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（2／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
バーチカルドレーン工	サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、ペーパードレーン	施工時	打込長さ	○
バーチカルドレーン工	サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、ペーパードレーン	施工時	施工位置	○
バーチカルドレーン工	サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、ペーパードレーン	施工時	杭径	○
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時	使用材料	○
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時	打込長さ	○
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工完了時	基準高	○
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工完了時	施工位置	○
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工完了時	杭径	○
固結工	粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、セメントミルク攪拌、生石灰パイル	施工時	使用材料	○
固結工	粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、セメントミルク攪拌、生石灰パイル	施工時	深度	○
固結工	粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、セメントミルク攪拌、生石灰パイル	施工完了時	基準高	○
固結工	粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、セメントミルク攪拌、生石灰パイル	施工完了時	位置・間隔	○
固結工	粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、セメントミルク攪拌、生石灰パイル	施工完了時	杭径	○

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（3／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
固結工	薬液注入	施工時	使用材料	○
固結工	薬液注入	施工時	深度	○
固結工	薬液注入	施工時	注入量	○
矢板工(仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料	○
矢板工(仮設を除く)	鋼矢板	打込時	長さ	○
矢板工(仮設を除く)	鋼矢板	打込時	溶接部の適否	○
矢板工(仮設を除く)	鋼矢板	打込完了時	基準高	○
矢板工(仮設を除く)	鋼矢板	打込完了時	変位	○
矢板工(仮設を除く)	鋼管矢板	打込時	使用材料	○
矢板工(仮設を除く)	鋼管矢板	打込時	長さ	○
矢板工(仮設を除く)	鋼管矢板	打込時	溶接部の適否	○
矢板工(仮設を除く)	鋼管矢板	打込完了時	基準高	○
矢板工(仮設を除く)	鋼管矢板	打込完了時	変位	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込時	使用材料	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込時	長さ	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込時	溶接部の適否	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込時	杭の支持力	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込完了時(打込杭)	基準高	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込完了時(打込杭)	偏心量	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込完了時(中掘杭)	掘削長さ	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込完了時(中掘杭)	杭の先端土質	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込完了時(中掘杭)	基準高	○
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	打込完了時(中掘杭)	偏心量	○

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（4／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
既製杭工	既製コンクリート杭、 鋼管杭、H鋼杭	杭頭処理完了時	杭頭処理状況	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	掘削完了時	掘削長さ	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	掘削完了時	支持地盤	△
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	鉄筋組立て完了時	使用材料	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	鉄筋組立て完了時	設計図書との対比	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	施工完了時	基準高	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	施工完了時	偏心量	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	施工完了時	杭径	○
場所打杭工	リバース杭、オールケ ーシング杭、アースド リル杭、大口径杭	杭頭処理完了時	杭頭処理状況	○
深礎杭		土(岩)質の変化した時	土(岩)質	△
深礎杭		土(岩)質の変化した時	変化位置※1	○
深礎杭		土(岩)質の変化した時	変化位置※2	△
深礎杭		掘削完了時	長さ	○
深礎杭		掘削完了時	支持地盤	△

※1：変化位置を色の変化等により確認する場合

※2：変化位置を打音検査等により確認する場合

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（5／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
深礎杭		鉄筋組立て完了時	使用材料	○
深礎杭		転勤組立て完了時	設計図書との対比	○
深礎杭		施工完了時	基準高	○
深礎杭		施工完了時	偏心量	○
深礎杭		施工完了時	杭	○
深礎杭		グラウト注入時	使用材料	○
深礎杭		グラウト注入時	使用量	○
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		鉄沓据え付け完了時	使用材料	○
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		鉄沓据え付け完了時	施工位置	○
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		本体設置前 (オープンケーソン)	支持層	△
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		土(岩)質の変化した時	土(岩)質	△
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		土(岩)質の変化した時	変化位置※1	○
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		土(岩)質の変化した時	変化位置※2	△
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		鉄筋組立て完了時	仕様材料	○
オープンケーソン基礎杭、ニューマチックケーソン基礎杭		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比	○

※1：変化位置を色の変化等により確認する場合

※2：変化位置を打音検査等により確認する場合

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（6／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
鋼管井筒基礎工		打込時	使用材料	○
鋼管井筒基礎工		打込時	長さ	○
鋼管井筒基礎工		打込時	溶接部の適否	○
鋼管井筒基礎工		打込時	支持力	○
鋼管井筒基礎工		打込完了時	基準高	○
鋼管井筒基礎工		打込完了時	偏心量	○
鋼管井筒基礎工		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	○
置換工(重要構造物)		掘削完了時	使用材料	○
置換工(重要構造物)		掘削完了時	幅	○
置換工(重要構造物)		掘削完了時	延長	○
置換工(重要構造物)		掘削完了時	置換厚さ	○
置換工(重要構造物)		掘削完了時	支持地盤	△
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	○
砂防ダム		法線設置完了時	法線設置状況	○
護岸工	法覆工 (覆土施工がある場合)	覆土前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	○
護岸工	基礎工、根固工	設置完了時	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	○
重要構造物※1		土(岩)質の変化した時	土(岩)質	△
重要構造物※1		土(岩)質の変化した時	変化位置※2	○
重要構造物※1		土(岩)質の変化した時	変化位置※3	△
重要構造物※1		床掘掘削完了時	支持地盤(直接地盤)	△
重要構造物※1		鉄筋組立て完了時	使用材料	○
重要構造物※1		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比	○
重要構造物※1		埋戻し前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	○
躯体工、RC 躯体工		沓座の位置決定時	沓座の位置	○
床板工		鉄筋組立て完了時	使用材料	○
床板工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比	○

※1：函渠工（樋門、樋管を含む）、躯体工（橋台工）、RC 躯体工（橋脚）、橋脚フーチング工、RC 擁壁、砂防ダム、堰本体工、排水機場本体工、水門工、共同溝本体工

※2：変化位置を色の変化等により確認する場合

※3：変化位置を打音検査等により確認する場合

別表1 遠隔臨場に関する「段階確認」確認項目一覧（7／7）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

種別	細別	確認時期	確認項目	適用性
鋼橋		仮組立て完了時 (仮組立てが省略となる場合を除く)	キャンパー	○
鋼橋		仮組立て完了時 (仮組立てが省略となる場合を除く)	寸法	○
桁製作工※1		プレストレス導入完了時 横締め作業完了時	設計図書との対比	○
桁製作工※1		プレストレス導入完了時 縦締め作業完了時	設計図書との対比	○
桁製作工※1		PC 鋼線・鉄筋組立て完了時(工場製作を除く)	使用材料	○
桁製作工※1		PC 鋼線・鉄筋組立て完了時(工場製作を除く)	設計図書との対比	○
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質	△
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	変化位置※2	○
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	変化位置※3	△
トンネル支保工		支保工完了時 (支保工変更毎)	吹き付けコンクリート厚	○
トンネル支保工		支保工完了時 (支保工変更毎)	ロックボルト 打ち込み本数	○
トンネル支保工		支保工完了時 (支保工変更毎)	ロックボルト 打ち込み長さ	○
トンネル覆工		コンクリート打設前	巻立空間	○
トンネル覆工		コンクリート打設後	出来形寸法	○
トンネルインバート工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比	○

※1：ポストテンションT(I)桁製作工、プレキャストブロック桁組立工、プレビーム桁製作工、
PC ホロースラブ製作工、PC 版桁製作工、PC 箱桁製作工、PC 片持箱桁製作工、PC 押出し箱桁製作工、
床板・横組工

※2：変化位置を色の変化等により確認する場合

※3：変化位置を打音検査等により確認する場合

別表2 遠隔臨場に関する「材料確認」確認項目一覧

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

区分	材料名	試験項目		適用性
全般	JIS 規格製品	資材確認		○
セメントコンクリート 製品	コンクリート杭 コンクリート矢板	外観試験		○
	レディミクストコンクリート	強度試験	圧縮強度	○
			曲げ強度	○
		スランプ試験		○
		スランプフロー試験		○
		空気量		○
	塩化物含有量		○	

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（1／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
土工	河川土工 海岸土工 砂防土工	一般事項	地山の土及び岩の分類	地山の土及び岩の分類は、表 1-2-1 によるものとする。 受注者は、設計図書に示された現地の土及び岩の分類の境界を定められた時点で、監督員の確認を受けなければならない。(1-37)	△
	道路土工	一般事項	地山の土及び岩の分類	地山の土及び岩の分類は、表 1-2-1 によるものとする。 受注者は、設計図書に示された現地の土及び岩の分類の境界を定められた時点で、監督員の確認を受けなければならない。(1-46)	△
土木工事材料	道路標識及び区画線	道路標識	反射シート	反射シートは、屋外にさらされても、著しい色の変化、ひび割れ、剥れが生じないものとする。 なお、受注者は、表 2-2-27、表 2-2-28 に示した品質以外の反射シートを用いる場合には、監督員の確認を受けなければならない。 (2-34)	○
一般施工	一般舗装工	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入材量の使用量の確認	アスファルト注入材の使用量の確認は、質量検収によるものとし、監督員の立会の上に行うものとする。なお、受注者は、使用する計測装置について、施工前に監督員の承諾を得なければならない。(3-118)	○

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（2／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
一般施工	地盤改良工	固結工	薬液注入工事前の確認事項	<p>受注者は、薬液注入工事の着手前に以下について監督員の確認を得なければならない。</p> <p>(1) 工法関係 ① 注入圧 ② 注入速度 ③ 注入順序 ④ ステップ長</p> <p>(2) 材料関係 ① 材料（購入・流通経路等を含む） ② ゲルタイム ③ 配合 (3-125)</p>	△
一般施工	植栽維持工	材料	樹木類の受入検査	<p>受注者は、樹木・芝生管理工の補植で使用する樹木類については、現場搬入時に監督員の確認を受けなければならない。また、必要に応じ現地（栽培地）において監督員が確認を行うが、この場合監督員が確認してもその後の掘取り、荷造り、運搬等により現地搬入時不良となったものは使用してはならない。(3-183)</p>	○
一般施工	植栽維持工	樹木・芝生管理工	植栽樹木の植替え	<p>3) 枯死、または形姿不良の判定は、発注者と受注者が立会の上行うものとし、植替えの時期について、発注者と協議しなければならない。(3-186)</p>	○
樋門・樋管	付属物設置工	境界工	境界杭（鉋）の設置位置	<p>受注者は、境界杭（鉋）の設置位置については、監督員の確認を受けるものとし、設置に際して隣接所有者と問題が生じた場合、速やかに監督員に連絡しなければならない。(6-23)</p>	○

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（3／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
河川維持	堤防養生工	芝養生工	肥料	受注者は、使用する肥料の種類、散布量及び配合は設計図書によらなければならない。また、肥料については、施工前に監督員に確認を得なければならない。なお、設計図書に示す材料、使用量及び配合等が施工箇所に適さない場合は、設計図書に関して監督員と協議しなければならない。 (6-65)	○
河川維持	構造物補修工	ボーリンググラウト工	機械の移動	受注者は、監督員が行うせん孔長の確認後でなければ、せん孔機械を移動してはならない。(6-66)	○
砂防堰堤	コンクリート堰堤工	コンクリート堰堤本体工	接合部の止水性の確認	受注者は、止水板接合完了後には、接合部の止水性について、監督員の確認を受けなければならない。(8-5)	△
砂防堰堤	砂防堰堤付属物設置工	境界工	境界杭(鉋)の設置位置	受注者は、境界杭(鉋)の設置位置については、監督員の確認を受けるものとし、設置に際して隣接所有者と問題が生じた場合、速やかに監督員に連絡しなければならない。(8-9)	○
斜面对策	地下水排除工	一般事項	検尺	受注者は、検尺を受ける場合は、監督員立会のうえでロッドの引抜を行い、その延長を計測しなければならない。ただし、検尺の方法について監督員が、受注者に指示した場合にはこの限りではない。(8-21)	○

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（4／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
コンクリートダム	掘削工	岩盤面処理	監督員の確認	受注者は、本条第3項及び第4項の作業完了後、監督員の確認を受けなければならない。(9-2)	△
コンクリートダム	掘削工	基礎岩盤の確認	一般事項	受注者は、岩盤清掃が完了したときには、基礎岩盤としての適否について、監督員の確認を受けなければならない。(9-3)	△
コンクリートダム	掘削工	岩盤確認後の再処理	岩盤確認後の再処理	受注者は、以下の場合には、監督員の指示に従い第9編9-1-3-5岩盤面処理4項の岩盤清掃を行い、コンクリート打設直前に監督員の再確認を受けなければならない。 (1) 基礎岩盤の確認終了後の岩盤を、長期間放置した場合。 (2) 基礎岩盤の確認後、岩盤の状況が著しく変化した場合。 (9-3)	△
コンクリートダム	ダムコンクリート工	原石骨材	表土処理	受注者は、表土の取り除きが完了したときには、原石としての適否について、監督員の確認を受けなければならない。(9-3)	△
コンクリートダム	ダムコンクリート工	打込み開始	打継目	受注者は、コンクリートの打込みに先立ち、打継目の処理及び清掃、型枠、鉄筋、各種埋設物の設置について、監督員の確認を受けなければならない。(9-6)	○
コンクリートダム	埋設物設置工	冷却管設置	通水試験	受注者は、冷却管及び附属品の設置が完了したときには、コンクリートの打込み前に通水試験を行い、監督員の確認を得なければならない。(9-11)	△

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（5／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
コンクリートダム	埋設物設置工	継目グラウチング設備設置	一般事項	受注者は、継目グラウチング設備の設置が完了したときには、監督員の確認を受けなければならない。(9-11)	○
コンクリートダム	埋設物設置工	止水板	接合部の止水性	受注者は、止水板接合完了後には、接合部の止水性について、監督員の確認を受けなければならない。(9-12)	△
コンクリートダム	パイプクーリング工	冷却工	冷却完了後の処置	(2) 受注者は、継目グラウチングを行った後、監督員の立会いのもとに冷却管内にセメントミルクを充填しなければならない。(9-13)	○
コンクリートダム	プレクーリング工	施工設備等	圧力計	受注者は、設計図書に示す仕様の圧力計を使用するものとし、使用前には検査を行い、使用する圧力計について監督員の確認を得なければならない。 また、圧力計の設置箇所は、監督員の承諾を得なければならない。(9-14)	○
コンクリートダム	プレクーリング工	施工	洗浄及び水押しテスト	受注者は、埋設管のパイプ詰まりの有無、継目面の洗浄、漏えい箇所の検出のため、洗浄及び水押しテストを行い、監督員の確認を得なければならない。(9-14)	△
コンクリートダム	プレクーリング工	施工	注入	(1) 受注者は、すべての準備が完了し、監督員の確認を受けた後、注入を開始しなければならない。(9-15)	○

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（6／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
フィルダム	掘削工	基礎地盤面及び基礎岩盤面処理	監督員の立会	受注者は、基礎地盤及び基礎岩盤の整形状況については、監督員の立会を受けなければならない。(9-18)	△
フィルダム	掘削工	基礎地盤面及び基礎岩盤面処理	基礎地盤確認	受注者は、基礎地盤の掘削及び整形が完了したときは、基礎地盤としての適否について、監督員の確認を受けなければならない。(9-18)	△
フィルダム	掘削工	基礎地盤面及び基礎岩盤面処理	基礎岩盤確認	受注者は、基礎岩盤の岩盤清掃が完了したときは、基礎岩盤としての適否について、監督員の確認を受けなければならない。(9-18)	△
フィルダム	盛立工	一般事項	盛立再開時の処理	受注者は、長期間にわたって盛立を中止し、その後盛立を再開する場合は、表層部のかき起こし、締め直しなど盛立材に応じた方法で新旧の盛立部分が一体となるように盛立面を処理し、監督員の確認を受けなければならない。(9-19)	△
フィルダム	盛立工	材料採取	表土処理	受注者は、表土の取り除きが完了したときは、材料の適否について、監督員の確認を受けなければならない。(9-20)	△
基礎グラウチング	ボーリング工	せん孔	せん孔機械の移動	受注者は、監督員が行うせん孔長の確認後でなければ、せん孔機械を移動してはならない。(9-23)	○

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（7／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『土木工事共通仕様書』より)	
舗装	道路植栽工	材料	樹木類の受入検査	受注者は、道路植栽工で使用する樹木類については、現場搬入時に監督員の確認を受けなければならない。 また、必要に応じ現地（栽培地）において監督員が確認を行うが、この場合監督員が確認してもその後の掘取り、荷造り、運搬等により現地搬入時不良となったものは使用してはならない。 (10-21)	○
舗装	道路植栽工	道路植栽工	植栽植樹の植替え	(3) 枯死または、形姿不良の判定は、発注者と受注者が立会の上行うものとし、植替えの時期については、発注者と協議しなければならない。(10-24)	○
トンネル(NATM)	トンネル掘削工	掘削工	岩区分の境界確認	受注者は、設計図書における岩区分(支保パターン含む)の境界を確認し、監督員の確認を受けなければならない。また、受注者は、設計図書に示された岩の分類の境界が現地の状況と一致しない場合は、監督員と協議する。 (10-63)	△

別表3 遠隔臨場に関する「立会」確認項目一覧（8／8）

凡例 ○：汎用的な機器で実施可能な確認項目

△：特殊な機器等が必要になる確認項目

項目					適用性
分類	細別	条の名称	確認事項	備考(『地質・土質調査共通仕様書』より)	
地質・土質調査業務	機械ボーリング	調査等	ボーリング位置、深度及び数量	(2) 現地におけるボーリング位置の決定は、原則として監督員の立会のうえ行うものとし、後日調査位置を確認できるようにしなければならない。	○
地質・土質調査業務	機械ボーリング	調査等	検尺	(2) 掘進長の検尺は、調査目的を終了後、原則として監督員が立会のうえロッドを挿入した状態で残尺を検尺の後、ロッドを引き抜き確認を行うものとする。	○

参考5 施工計画書の記載例

(8) 施工管理計画

5) 段階確認等

設計図書で定められた段階確認事項についての計画を記述する。

種別	細別	確認項目	施行予定時期	記事
道路土工 (掘削工)		土質、変化位置	土質の変化した時	
護岸工	法覆工(覆土施工がある場合)	覆土前	○月○日	遠隔臨場又は現場臨場
護岸工	基礎工	設置完了時	○月○日	遠隔臨場又は現場臨場

遠隔臨場で使用する動画撮影用カメラと Web 会議システムにかかる機器と仕様は以下のとおり。

動画撮影用カメラ	項目	仕様	備考
スマートフォン (i-Phone)	映像	画素数：640×480 以上 フレームレート：15fps 以上	カラー
	音声	マイク：モノラル(1チャンネル) 以上 スピーカ：モノラル(1チャンネル) 以上	

WEB 会議システム	項目	仕様	備考
Zoom ミーティング	通信回線速度	下り最大 50Mbps、上り最大 5Mbps 以上	
	映像音声	転送レート (VBR)：平均 1Mbps 以上	

遠隔臨場の実施方法は以下のとおり

- ・事前に監督員と動画撮影用のカメラ(ウェアラブルカメラ等)や Web 会議システム等の仕様、通信状況等について確認を行う。
- ・監督員が現場における確認箇所の位置関係を把握できるようにするために、遠隔臨場の実施前に現場周辺の状況を伝える。
- ・「工事名」、「工種」、「確認内容」、「設計値」、「測定値」や「使用材料」等の必要な情報について適宜黒板等を用いて表示する。記録にあたり、必要な情報を読み上げ、監督員による実施結果の確認を得る。

遠隔臨場を中断した場合の対応は以下のとおり

- ・机上確認や別日に実施する等について、監督員と協議を行う。

参考6 業務計画書の記載例

(11) 施工管理計画

立会時に使用する動画撮影用カメラと Web 会議システムに係る機器と仕様は以下のとおり。

動画撮影用カメラ	項目	仕様	備考
スマートフォン (i-Phone)	映像	画素数：640×480 以上 フレームレート：15fps 以上	カラー
	音声	マイク：モノラル（1チャンネル）以上 スピーカ：モノラル（1チャンネル）以上	

WEB 会議システム	項目	仕様	備考
Zoom ミーティング	通信回線 速度	下り最大 50Mbps、上り最大 5Mbps 以上	
	映像 音声	転送レート（VBR）：平均 1Mbps 以上	

遠隔臨場の実施方法は以下のとおり（立会の場合）

- ・事前に監督員と動画撮影用カメラ（ウェアラブルカメラ等）や Web 会議システムの仕様、通信状況について確認を行う。
- ・監督員が現場における確認箇所の位置関係を把握できるようにするために、遠隔臨場の実施前に現場周辺の状況を伝える。
- ・「業務名」、「確認内容」等の必要な情報について適宜黒板等を用いて表示する。記録にあたり、必要な情報を冒頭で読み上げ、監督員による実施項目の確認を得る。終了時には、確認箇所の内容を読み上げ、監督員による実施結果の確認を得る。

遠隔臨場の実施方法は以下のとおり（打合せの場合）

- ・事前に監督員と動画撮影用カメラ（ウェアラブルカメラ等）や Web 会議システムの仕様、通信状況等について確認を行う。
- ・打合せ出席者の確認を行い、「打合せ内容」について資料を画面表示し、監督員に説明を行う。
- ・打合せ記録簿に遠隔臨場での打合せを記載の上、監督員へ提出する。

遠隔臨場を中断した場合の対応は以下のとおり

- ・机上確認や別日に実施する等について、監督員と協議を行う。